TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

成長する教会に不可欠なこと（パート 3）

パンを裂くことに身を捧げる　使徒言行録 2:42-47

2024 年 9 月 7 日 & 8 日
神永 譲　牧師

はじめに
TBC 渋谷の皆さん、スバ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会、福岡国際教会、TBC 三郷、TBC ウェスト トウキョウの兄弟姉妹や友人の皆さん、こんにちは。

半年以上前に、使徒行伝第 2 章 42-47 節からメッセージ・シリーズを始める特権を与えられ、これまで 2 回メッセージすることができました。振り返ると、聖霊の降臨と力強い働きによって、また使徒行伝第 2 章 37-41 節から、福音の説教、悔い改め、洗礼が最初の教会の設立をもたらしたことを学びました。しかし、最初の信者、最初の教会のメンバーは、新しい人々に説教し、バプテスマを施しただけでなく、いくつかの重要なことにも一心に身を捧げました。このことは、次の 42～47 節に書かれています。
42:そして、一同はひたすら、使徒たちの教えを守り、交わりをなし、パンを裂き、祈りをしていた。43:すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。44:信じた者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、45:財産や持ち物を売っては、必要に応じて、皆がそれを分け合った。46:そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に集まり、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事を共にし、47:神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加えてくださったのである。（使徒行伝 2:42-47）
祈りましょう！

最初の信者たちが身を捧げた、7 つの重要事項があります。
（1）　使徒の教え
（2）　交わり
（3）　パンを裂く
（4）　祈り
（5）　互いに与えたり、奉仕したりする
（6）　神を賛美したり、礼拝したりする
（7）　福音を伝えたり、伝道活動をしたりすること：「主は救われる人々を彼らの中に加えられました」。

パンを裂くことに専念しましょう
最初のメッセージは、「使徒の教え」に焦点を当て、次は「交わり」について述べました。今日のメッセージでは「パンを裂くこと」についてお話しします。これは成長する教会に必要な 3 つ目の事柄です。

「パンを裂く」とはどういう意味か
今回のメッセージを準備するため、私は次のことを読みました。「学者たちは『パンを裂くこと』が主の晩餐を指すのか、それとも共同の食事、特にユダヤ人の食事の始めに裂いて配られる最初のパンを指すのかが議論されています。使徒言伝録 2:46 は、食事全体が含まれていたことを示しているようです。」
「そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に集まり、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事を共にし」た。（使徒言伝録 2:46）
私は、パンを裂くことには二つの行為が含まれると考えています。一つは主の晩餐あるいは聖餐式と呼んでいるものの施し、二つ目は交わりの中で食事を分け合うことです。このメッセージでは、主の晩餐についてだけお話します。交わりに関する前回のメッセージでは、食事を分け合うことについてある程度触れました。

聖霊の教えの働きと十二使徒の指導の下で、新しくできた教会の最初の信者は、パンを裂くことに身を捧げました。明らかに、使徒たちが少し前にイエスから学んだもので、今では次の世代の信者たちに伝えられています。

主の晩餐の施し
主の晩餐あるいは聖餐式は、イエスの命令に従って教会が行っている 2 つの儀式のうちの 1 つです。もう 1 つの儀式は、全身を水につける洗礼です。儀式とは、簡単に言うと、神への従順の行為として私たちが守っている儀式または慣習です。言い換えれば、儀式とは神によって定められた儀式であり、信者が神の命令に従って行うものです。キリスト教の宗派によっては、洗礼と主の晩餐は聖礼典と見なされています。聖礼典の目的をどう考えるかによって、救いに必要なものか、恵みを受け取るための手段であるかに分かれます。しかし、福音派の信者、もっと具体的に言えばバプテスト派の私たちは、聖礼典ではなく儀式として扱います。

最後の晩餐と最初の主の晩餐
繰り返しますが、このメッセージの焦点は主の晩餐です。主の晩餐のことは、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書に書かれています。パウロもコリントの信徒への手紙一の中で、主の晩餐について幾つかの指示と共に述べています。ルカも聖霊の啓示を受けて使徒言伝録を書いたので、彼の主の晩餐に関する記述をお話ししたいと思います。

14:時刻になったので、イエスは食事の席に着かれた。使徒たちも一緒だった。15:イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共に、この過越の食事をしたいと、私は切に願っていた。16:言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまでは、私はもはや二度と過越の食事をすることはない。」17:そして、イエスは杯を取り、感謝の祈りを献げて言われた。「これを取り、互いに分けて飲みなさい。18:言っておくが、神の国が来るまで、私は今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」19:それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。」20:食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、私の血による新しい契約である。(ルカによる福音書 22:14-20)

主の晩餐の土台としての過越祭
旧約聖書の出エジプト記 12:1-17 では、神は民であるイスラエル人に対し、毎年過越祭を祝い、エジプトでの奴隷から解放してくれた神を忘れないようにと命じました。十の災いの最後の災いは、イスラエル人以外のエジプト全土の初子―人間と動物の両方―を死に至らせました。だからイエスが過越祭を祝った夜に裏切られ、捕らえられましたが、その同じ夜に主の晩餐を設立しました。

すべての礼拝で主の晩餐を祝う
今週のすべての礼拝で、私たちは主の晩餐を行います。オンラインで参加される方は、主の晩餐の祝いに参加できるよう、パン一切れと葡萄ジュースを 1 杯用意してください。

主の晩餐に関する 5 つの重要事項と留意点
今から主の晩餐についての、5 つの重要事項を皆さんにお話しします。これは主の晩餐の留意点でもあります。

1. 主の晩餐を受けるとき、イエスの人間性を認めて、思い出しましょう
ペテロは、記述されている最初の説教でこのように言いました。
22:イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、この方を通してあなたがたの間で行われた奇跡と不思議な業としるしとによって、そのことをあなたがたに示されました。あなたがた自身がご承知のとおりです。23:このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手によって、はりつけにして殺したのです。24:しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。(使徒言伝 2:22-24)
神の子であるイエスは、処女の胎内に宿り、人間として生まれました。イエスは人間の肉体をもって来られました。つまりイエスは 100%人間でした。イエスは、罪がなく、罪を一つも犯さなかったことを除いて、皆さんや私と同じ人間でした。これがイエスの初臨でした。
イエスは人間だったため、時間の中のある期間に縛られていました。つまり、同時に 2 つの場所にはいられませんでした。イエスがパンを「これは私の体です」と言ったとき、比喩的または象徴的に話していたと私たちは考えています。パンはイエスの体を表し、杯はイエスの血を表します。つまりパンはイエスの実際の体にはならず、またなることもありませんし、杯はイエスの実際の血にはなれず、なることもありません。
また、人間として、イエスは死に至りました。実際の肉体の死が、私たちの罪の赦しと救いのための犠牲として必要でした。
2. 主の晩餐を受けるとき、私たちは自分の罪の代償について考え、思い出しましょう

言い換えれば、主の晩餐の間、私たちは神の赦しの深さについて真剣に考えます。

22 こうして、律法によれば、ほとんどすべてのものが血で清められます。血を流すことなしには赦しはありえないのです。(ヘブライ人への手紙 9:22)

18 知ってのとおり、あなたがたが先祖伝来の空しい生活から贖われたのは、銀や金のような朽ち果てるものによらず、19 も染みもない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。(ペテロの手紙一 1:18-19)

皆さんの代価は、有形の物や創造された物で払うことはできません。神の御子が自ら人間の肉体をもって現れ、あなたが生きられなかった人生を生き、そして最終的に自らの肉体と血を犠牲にして、皆さんを地獄での罪の永遠の罰から救い出すことが必要でした。神の心の中で皆さんはそれほど価値があるのです！神は私たちを神の似姿に創造し、そして今も増々神の御子に似せてつくられています。

3. 主の晩餐に参加するとき、神の愛を祝い、思い出しましょう

ここに福音を一節でまとめられる、わたしが典型的な福音の聖句と呼んでいる一節があります。16:神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネによる福音書 3:16)

そして、私たちに対する神の愛をはっきりと語るもう一つの聖句があります。6:キリストは、私たちがまだ弱かった頃、定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。7 正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のためなら、死ぬ者もいるかもしれません。8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。(ローマの信徒への手紙 5:6-8)

ああ、私のような罪人に対する神の愛はなんと素晴らしく、衝撃的で、驚きなのでしょう。有名な賛美歌の最初の節にこうあります。

「そして、あり得るだろうか。私が救い主の血潮の益を得るとは？
彼(イエス)の苦痛の原因となった、私のために死んでくださるとは？
私なんかのために、死に向かってくださるとは？
驚くべき愛！ どうしてあり得るだろうか。
あなたが…私の神よ、あなたが私のために死なねばならなかったのですか？」
(チャールズ・ウェスレー、1738 年「わが主を十字架の」)

4. 主の晩餐を受けるとき、キリストと私たちの一致を確認し、思い出しましょう

19:それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。」(ルカによる福音書 22:19)

15:私は賢い人たちに話すように話します。私が言うことを自分で判断しなさい。16:私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血との交わりではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストの体との交わりではありませんか。17:パンは一つだから、私たちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンにあずかるからです。(コリントの信徒への手紙一 10:15-17)

この聖句から、主の晩餐であるパンと杯は、キリストの体、つまり肉体と血を表していることがわかります。そして主の晩餐はキリストの体である教会のためのものでもあります。私たちは教会のメンバーとして、同じパンと杯を分かち合います。このことから何が分かるでしょうか。私たちはキリストの体の一人ひとりのメンバーとして、キリストにおいて互いに結ばれているのです。

だから、その体には派閥や分裂があってはなりません。神の恵みにより、TBC ファミリーに一致という賜物をくださった主に感謝しています。教会内での物事の見方や教会の運営方法について意見の違いが生じることもあるでしょうが、最も大切なこと、つまり神と私たち同士の関係については、一致することを続けましょう。

5. 主の晩餐を受けるとき、互いに励まし合い、キリストにおける私たちの将来に思いを馳せましょう

イエスの口から、将来への希望に満ちたこの言葉が来ました。
16:言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまでは、私はもはや二度と過越の食事をすることはない。」18:言っておくが、神の国が来るまで、私は今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」(ルカによる福音書 22:16、18)

パウロは、コリントの信徒への手紙一でこう書いています。
26:だから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲む度に、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。(コリントの信徒への手紙一 11:26)

主の晩餐に参加するとき、主イエスの再臨への期待が生まれます。

27:そして、人間には、ただ一度死ぬことと、その後裁きを受けることが定まっているように、28:キリストもまた、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、救いをもたらすために、ご自分を待ち望んでいる人々に現れてくださるのです。(ヘブライ人への手紙 9:27-28)
ここでの「救い」という言葉は、キリストにおける私たちの贖いの達成や完了を意味します。この段階で、私たちは主ご自身から栄光の体と報酬を受け取ります。

以上の重要な点と留意事項を念頭に、3 つの問いに答えたいと思います。
- 主の晩餐は誰が参加できますか？
- 主の晩餐はどのくらいの頻度で行うべきですか？
- 主の晩餐のためにどのような準備をすればいいですか？

主の晩餐には誰が参加できますか？
聖書には、主の晩餐に誰がパンと杯を取ることができるかについて明確な記述はありません。コリントの信徒への手紙一第 11 章 17-29 節にあるパウロの説教と、主の晩餐について言及している様々な聖句の理解から、キリストを通して神と個人的な関係を持つ信者だけが参加できると結論づけることができます。

主の晩餐はどのぐらいの頻度で行うべきですか？

イエスは弟子たちに、自分、特に自分の死を思い出すために主の晩餐をどのくらいの頻度で行うべきか指示をしませんでした。聖書の他の部分にも、指示の記載はありません。

体のために、どのくらいの頻度で食事をしますか？毎日ですよね？1日に何回でしょうか？1日に２回か３回ですよね？(中には絶えず食べている人もいます😊)イエスが私たちへの犠牲的な愛の象徴として「パン」と「杯」を使った理由を考えたことがありますか？イエスは、私たちが食べるのと同じくらい頻繁に、彼と彼の犠牲について思い出してほしいと願っているのでしょう。つまり、毎日、毎時間、毎分です！

しかし教会として、キリストの体として、私たちは共に集まり、意味のある方法で主の晩餐に参加したいと願っています。そのため、指針となる原則は、心をキリストに戻し、キリストとの関係に再度向きあう頻度であると同時に、頻繁すぎて習慣化しないようにしなければいけません。大切なのは、神とお互いに対して正しい心の有りさまであることです。

TBC では、スモールグループで主の晩餐を行うことを奨励しています。ほとんどのバプテスト教会で一般的に行われているように、私たちの礼拝では年に 3～4 回、主の晩餐を行っています。

主の晩餐のためにどのような準備をすればいいですか？
27:従って、ふさわしくないしかたで、主のパンを食べ、主の杯を飲む者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。28:人は自分を吟味したうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。29:主の体をわきまえないで食べて飲む者は、自分に対する裁きを食べて飲むことになるのです。(コリントの信徒への手紙一 11:27-29)
一般的に、告白していない罪を抱えているのは、「ふさわしくない」態度です。もしあなたが、教会や仲間の信者に対する批判や対立の精神など、告白していない罪を抱えているなら、神の言葉で何をすべきだと言われていますか？「自分を吟味」しなさいと言っています。主の晩餐を受ける前にあなたの心に罪があれば、それを告白し、主に赦しを求めなければなりません。主の晩餐を受ける時、神や他の人々との交わりを妨げるものがあってはなりません。これが主の晩餐の儀式のための適切な準備です。

結論
ですから、私たちが主の晩餐を受けるとき、
- イエスの人間性を認めて、思い出します。
- 自分の罪の代償について考えて、思い出します。
- 神の愛を祝い、思い出します。
- キリストにおける私たちの一致を確認し、思い出します。
- 互いに励まし合い、キリストにおける私たちの未来に思いを馳せます。

私が祈る間、主の晩餐を施すために手伝っていただく方々には、ステージに上がってもらいたいと思います。
祈りましょう！

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

先週のメッセージ訳に誤訳がありましたので訂正します。
訂正前:ヤハウェは裁きです。イエスもご自身を裁きと言われました。(イザヤ 1:26、ヨハネ 5:22)
ヤハウェは初めでありまた終わりです。イエスもご自身を最初であり最後であると言われました。(イザヤ 48:8、黙示録 1:17)

訂正後:ヤハウェは裁きです。イエスもご自身を裁きと言われました。(ヨエル記 4:12(英語訳は 3:12)、ヨハネ 5:22)
ヤハウェは初めでありまた終わりです。イエスもご自身を最初であり最後であると言われました。(イザヤ 48:8、黙示録 1:17-18)

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3724jp

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

★クラス 201
霊的成長について
9月22日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方
https://t-b-c.us/classes

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu